

SEIQoL-DW から捉えた個人の QoL
筋ジストロフィーの病いを伴う人の語りから

立命館大学大学院応用人間科学研究科

臨床心理学領域 高垣ゼミ

西田美紀

医療分野における QoL は、医療行為が最終受益者である患者に真に役立っているのかといった近代医療の反省から起因しており、客観的・生物学的指標を重視してきた医療から、主観的・人間学的指標を重視する「全人的医療」の中において注目されていた。しかし、先行研究を概観すると、個人の QoL は客観的に構成された指標（質問紙）により捉えられ、QoL の向上に視点が注がれていた。QoL の向上には、まず病いを伴いながら本人がどのように感じ考えながら生活し、何を大切に生きてきて現在があるのかといった、個人の QoL についての理解や指標が必要であり、その上でどのようなケアが必要かを検討していくべきである。個人の主観的な生活や人生から QoL を理解し、ケアについて検討していくことは、根治困難な病を伴う人の QoL 理解と援助の視点を示唆する上で意義があると考えられる。そこで、本研究では、個人の QoL 評価法である SEIQoL-DW を用い、筋ジストロフィーの病いを伴う人の QoL を明らかにし、SEIQoL-DW から構成された QoL について考察し、援助の視点について検討することを目的とした。方法は、53 歳～69 歳の男性 3 名を対象に SEIQoL-DW を取り入れた半構造化面接を 4 回実施し、SEIQoL-DW からの分析と語りからの質的分析を行った。その結果、QoL に影響する領域は個人によって異なり多様であることが明らかになった。また、各領域は、これまでの生活や人生に影響され、現在の生活環境や身体、他者との関係性と自己のニーズから発生し変化していくことが示唆された。一方、「体」「家族」と共通した領域もあり、考究していくと共通概念があることが示唆された。SEIQoL-DW から導き出された各領域の満足度と重要度からは、個人のニーズが捉えられ、対人援助の示唆が得られた。そこで、QoL の社会的構成・QoL の共通概念・指標としての QoL・対人援助の示唆・ナラティブアプローチについて考察した。QoL に影響する領域は、周囲の環境や他者との関係など社会的相互交流によって生成・維持・変化していくことが考えられ、共通概念からは、身体的・社会的関係性の中において「自己の存在価値」が満たされることが個人の QoL に大きく影響していることが考えられた。援助の視点としては、個人のニーズを理解し受容しつつも、援助者自身が「できること」への価値を転換し、無条件に対象者の存在価値を肯定した関わりを行うこと、また SEIQoL-DW を語りのツールとして、ナラティブアプローチ（状況に応じてナラティブセラピーへ）していくことが QoL 向上の援助には有用ではないかと考えた。